

## 遺骨返還提訴へ調査／識者ら百按司墓を訪問

琉球新報 2018.09.15 琉球新報朝刊 26頁 2社 1版 写図表有 (全346字)

昭和初期に旧帝国大学の人類学者が今帰仁村の百按司（むむじゃな）墓から持ち出した遺骨が返還されていない問題で、松島泰勝龍谷大学教授らが14日、百按司墓を訪れ、現地調査した。松島教授らは調査結果を踏まえ、遺骨返還を求めて京都大学を提訴する方針。

調査したのは松島教授と弁護士、訴訟の原告予定者ら約15人。百按司墓で手を合わせ、今帰仁村教育委員会の担当者から百按司墓について説明を受けた。

丹羽雅雄弁護士は「これは歴史的につくられてきた差別の問題で、基地問題にも通じる。（遺骨返還を求めるのは）普遍的人権だという視点を裁判で訴えたい」と話した。

松島教授は「今帰仁村と京都大学の協議は進んでおらず、裁判で返還を求めるしかない状況だ。京都大は植民地主義的な態度を改め、遺骨を返還すべきだ」と述べた。

琉球新報社

本サービスにおける著作権および一切の権利は株式会社ジー・サーチまたはその情報提供社に帰属します。  
本サービスの出力結果を複製、複写、出版、販売または第三者に対し配布することは禁止されています。